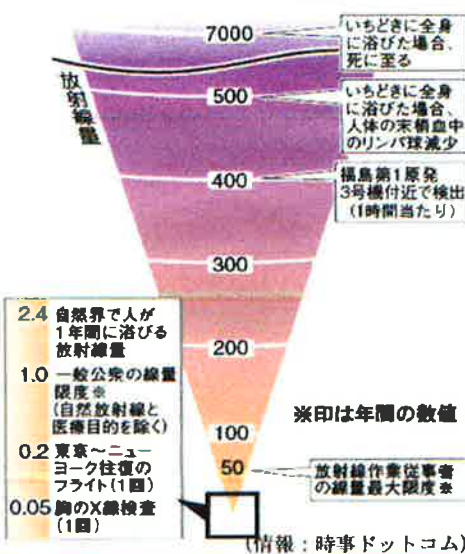


発行：安全な生活を願う市民の集い (Tel・Fax：042-725-2545)

放射線量と人体への影響

(単位:ミリシーベルト)



福島原発事故以来、私達は今まで知らなかった多くの専門用語に出会いました。その中で、今後もよく使うと思われる二語を整理してみます。

ベクレルⅡその物が出す放射性物質(放射能)の量を示す単位。二五年前のチェルノブイリ原発事故では、少なくとも「約4百兆ベクレルの1万倍」の放射能が放出されたといわれています。

シーベルトⅡ放射線を浴びた人が受ける影響の程度を示す単位。私達が胸部X線検査を一回受けた時の放射線被曝は0.05ミリシーベルトです。1ミリシーベルトの千倍が1シーベルト、千分の一が1マイクロシーベルトです。

さて、東京電力は八月一日、福島原発の一号機と二号機の間にある排気筒の根元付近で、毎時10シーベルト(Ⅱ1万ミリシーベルト)以上の放射線が観測されたと発表しました。さらに翌日、東電は他の箇所にも10シーベルト以上の可能性を発表。この数値は線量計の測定上限値であることから、実際は更に高い放射線量の可能性があるとのこと。恐るべき発表です。

一体、この膨大な放射線は、今後どこへ行くのでしょうか？ そもそも、この放射線はいつから放出されていたのでしょうか？いつまで放出され続けるのでしょうか？その積算総量はどれほどになるのでしょうか？

関係当局からの情報発信は日毎に減少しています。私達は、想像をたくましくして、自分でよく考える必要があると痛感します。

8月8日午後、各地の大気中の放射線量(単位は毎時・マイクログリシーベルト)Ⅱ朝日新聞Ⅱ



★シンポジウム

ご参加ください!

★原発にさようなら集会

◀ 福島原発事故から何が見える? ~放射能といのち~ ▶

日時：2011年8月14日(日) 12:30開場

会場：町田市民フォーラム (3階ホール)

講師：小泉 好延 さん(放射線計測学)

森住 卓 さん (フォトジャーナリスト)

お申込・お問い合わせ：Tel・042-729-2296

日時：2011年9月19日(月) 13:30~

集会規模5万人。

集会後、パレードがあります。

場所：東京・明治公園

(JR千駄ヶ谷駅より5分)

お問い合わせ：Tel・03-5289-8224

【後記】私達は、放射能の心配がない安全な生活環境を取り戻したいと願う者のグループです。毎月1・11・21日にこのニュースをお届けします。Faxにて集会情報のご投稿をお願いします。